

## 国際健康福祉実習(スウェーデン)実習報告書

私は 2/6～2/25 まで国際健康福祉実習でスウェーデンに向かった。実習の目的として、第一に福祉の先進国であるスウェーデンではどのような福祉政策を行っているのかを知ること、第二に空手や剣道などの日本の武道が海外ではどのような評価をされているのかを知り自国の文化の価値について考察していくこと、第三に英語のスピーキング力を高め海外での国際交流を自ら積極的に行うこと、そして最後にスウェーデンでの文化を学び日本とはどのような文化の違いがあるのかを学び価値観を広げていくことを今回の実習の目的とした。目的の達成度はスピーキング力に関しては多くの課題が残っているように感じ、積極的に英語でコミュニケーションを取ることができなかったのもっと英語力は伸ばしていきたい。

実習内容としては主に福祉、武道に関連した行事が主に組み込まれていた。まず 2/8 にはスウェーデン、ボーデン市の小学校へ訪問させて頂く機会があり、ボーデンでの小学校の授業体系は日本みたいに 30 人以上の大人数クラスなどではなく 10 人もいないほどの少人数で障がいがあるなしに関わらず、平等に同じ授業を受けていくというものだった。またここで初めて知ったのがスウェーデンでは学校、仕事のどちらにも「フィーカ」というスウェーデン独自の文化があり、甘いものを食べたりコーヒーを飲んだりしながら数十分の休憩を取りリフレッシュするという文化があった。またこのフィーカには他者とコミュニケーションと取ることも重視しており周囲の円滑な関係を築いていくことも目的としている。実際に私たちも小学校で子どもたちとフィーカをすることができそこでコミュニケーションを取ることができた。その他の日ではボーデンの博物館に貸切で入場させて頂く機会があったり、障がいを持った方とのパラスイミング、寒中水泳、そして宿泊地から近くにある高校にへも何回か行かせて頂く機会があり介護体験ができる授業を見学させてもらうことができたりと充実した実習を経験することができた。武道関連では空手や剣道といった日本の文化を障がい者の方と一緒に体験することができ私たちよりも日本の文化に馴染んでいるスウェーデンの方々を見て日本の文化は他国でもこんなに楽しまれているのだと驚いた。

今回の実習は日本ではできないことを経験することができた貴重な機会であり、今後の人生選択においても大事な実習になったであろうと感じる。私は現在福祉系の仕事に就きたいと考えておりスウェーデンでの福祉体制を知ることができたことで将来日本にもこのような福祉体制があれば、と思うことが何回もあった。これはかなり大きい欲望だが将来福祉系の業務に就いたときスウェーデンで学ぶことができた福祉体制を少しでも日本に取り入れることができればいいなと今回の実習で感じた。海外に旅立つ勇気も培われたと思うのでこれからは色々な外国に行きそれぞれの文化を知っていくことも目標にしていきたい。この実習は福祉やスポーツに興味がある生徒にとってとても有意義な実習であると思う。他の国際健康福祉実習に比べて比較的長い実習期間だったが、まだまだスウェーデンのことについて知りたいことがたくさんあったのもっと長い期間滞在したいと思うほど充実した日々を送ることができた。以上が実習報告である。